

CASE PRESENTATION

Dentist

Technician

Hygienist

真に“快適・確実で効率的”な 診療システムの提案

—歯科医師とスタッフの連携を中心に—



神奈川県 聖母歯科医院
歯科医師 豊山洋輔
歯科衛生士 豊山とえ子
フリーランス
歯科衛生士 天谷博子

はじめに

近年、デザインに優れ、高機能なユニットが開発され、クライアント（当院での患者の呼称）の快適性や満足度の向上に役買っている。当院でもジーシー社から発売された「ソヴリン」のフライングタイプを採用した。ジーシー・サークル（136号）でもその臨床特長が紹介されているが、クライアントとのかかわり方や診療の広がりを感じながら毎日楽しく臨床を行っている。

読者の皆さんは、フライングタイプについてご存知でしょうか。国内での使用率は低いものの、ヨーロッパ市場ではシェア50%以上とスタンダードタイプとして使用されており、歯科大学によっては80%を超えるといわれている。先日行ったIDSでも、展示されているユニットの少なくとも半数以上がフライングタイプであった。私の診療室もすべてのユニットがフライングタイプ

である。

そこで、今回はフライングタイプの「ソヴリン エルゴ」の臨床応用（2ハンドテクニック、4ハンドテクニック）を通してフライングタイプのもたらす臨床的なメリットや歯科医師とスタッフの連携について模擬臨床を通して紹介する。新しい情報として、また日々の臨床に参考いただければ幸いです。



1-1 従来タイプでの診療の場合は、インストゥルメントを取り出す場合でも体を回し、クライアントの口腔から視野を動かす必要が出てくる。



1-2 フライングタイプでは、クライアントの口腔から視線を外すことなくスタッフからインストゥルメントを受け取ることができる。



1-3 ハンドピースは人差し指1本で支えられるほど、手首への負担は軽減される。また、クライアントの視野にハンドピースなどは入ってこない。

フライングタイプの臨床特長と機能

1. オペレータは体を動かさなくてもクライアントの口腔、アシスタント、診療器材のすべてを視野に入れ診療を進めることができる。
2. 通常オペレータが行うバーチェンジなどは、アシスタントワークとなるので治療を中断する必要がない。
3. ハンドピースをクライアントの胸上に落としたとしても、距離がなくアームでつられているため、置いた程度の衝撃しか与えない。また、ホースの長さの関係から床面には届き得ないので、落下による故障はない。
4. ハンドピースはアームにつられているため、通常のホースごと引き上げるタイプより正確な操作が可能になる。

1-4 フライングタイプの臨床特長と機能

歯科衛生士としての「フライングタイプのユニット」の印象

私のフライングタイプのファーストインプレッションは、「これ何？」という驚きでした。どのようなポジションでクライアントや先生に対応するのが想像しにくかったのを覚えています。しかし、ユニットの構造と臨床の流れを考えながら使用していくうちに

とても使いやすいユニットだと感じ、快適に診療が行えるようになりました。2ハンドテクニックにおけるPTCの臨床では約1ヶ月で慣れ、2ヶ月後には従来のユニットで行うより能率が上がっていたように記憶しています。クライアントに快適な治療を受け

ていただくために、もっとも重要なのは術者が快適に治療を進められることであると考えています。そのような意味でも、フライングタイプは使いやすく快適な治療ができるユニットであると思います。ここでは、日々のPTC臨床の一部をご紹介します。

2ハンドテクニックによるPTCの臨床



2-1 ソブリンとオプティライン リアキャビネット サテライトトレイは、クライアントの口腔、ハンドピース、器材を同一視野に入るポジションをとることができる。



2-2 ソブリンとオプティライン リアキャビネット サテライトトレイは思い通りのポジションを取ることができるので、効果的なPTCを行うことができる。



2-3 手の甲に専用カップをつけることで見た目にもきれいに操作できる。



2-4 クライアントからハンドピースが見えにくい位置関係にすることができ、クライアントの不安を抑えることも可能である。



2-5 手首にホースおよびハンドピースの荷重が掛からないため、腱鞘炎などのトラブルを未然に防ぐことが期待できる。



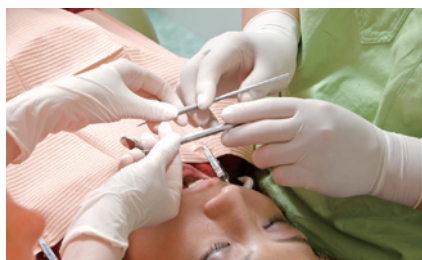
2-6 荷重が掛からないことで強い力を必要としないため、より正確な操作ができる。この結果クライアントに不快感を与えることが少ない。

4ハンドテクニックによる臨床の基本動作

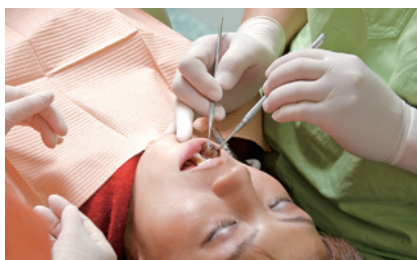
治療を確実に、快適に、しかも効率よく進めるためには、歯科医師とスタッフの連携が重要になる。アシスタントは常に診療の先を読み、バーの着脱、インスツルメントの受け渡し、バキュームの方向、使うタイミングなど、歯科医師の意思を読み取ることが求められる。それを実現するためには、歯科医師とスタッフのコミュニケーションが大切であるが、

その効果的な連携を常に発揮するためには、歯科医院のシステムが構築されていることが基本となる。当医院でもこのシステムづくりには力を入れており、正直なところ面倒で時間を要するのだが、“急がば回れ”である。その基本ができると、自然に治療できる。その結果、クライアントにとって安心かつ気持ちよい治療を提供できることになる。クラ

イアントはチェアの寝心地の良さにとまなない、治療中に眠ってしまうことがあるが、歯科衛生士はうまくできたという達成感から「やった!」という喜びに結びつくらしい。そして、このような臨床の流れをつくれるのがフライングタイプの「ソヴリン エルゴ」である。ここでは、臨床の流れにおける歯科医師とアシスタントとの連携を中心に紹介する。



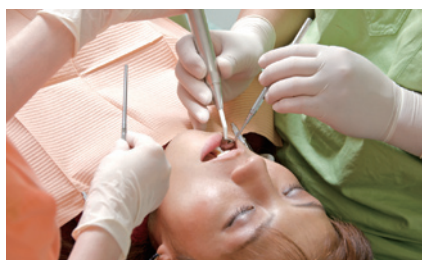
3-1 アシスタントよりミラーと短針を渡されスタート。従来タイプではオペレータが自ら取りに行く必要がある。



3-2 アシスタントの手元に注目。完全にフリーなのでバーのセットなどの作業も可能となる。



3-3 アシスタントは短針とシリンジを交換。この間、オペレータのレストは保持されたままである。



3-4 アシスタントはオペレータに比べ、視野を広く取れるため器具の引き上げなども安全、確実にできる。



3-5 シリンジからハンドピースへの持ち替え。この動作はフライングタイプの独自の動作である。



3-6 アシスタントにより適切なバーがセットされたハンドピースを、使用する方向に合わせて手渡された。

● 「ソヴリン エルゴ」(フライングタイプ)と従来タイプの診療動作の比較

フライングタイプを活用した当院の臨床イメージを紹介してきたが、フライングタイプ(上段)とオーバーアームタイプやスライドタイプのユニット(下段)の模擬臨床を

通して比較し、その違いを紹介する。ここでお分かりになるようにフライングタイプは、アシスタントと効率良く連携することにより、歯科医師の頭はほとんど動くことな

く、常にクライアントの口腔内を視野に入れておくことができる(たとえば、口腔内を見る、次にインスツルメントを取る、このような動作の繰り返しは、視野の明暗の変

「ソヴリン エルゴ」(フライングタイプ)



この2つのステップは、フライングタイプの場合アシスタントが行ってしまうのでオペレータの作業は中断されない。効率化が図れ、時間短縮に結びついている。

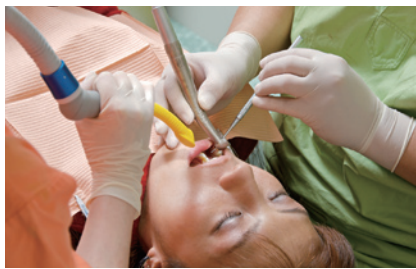


従来タイプイメージ





3-7 手渡された向きのままで切削操作に移れる。ご覧のとおり手首にはストレスが掛かっていない。



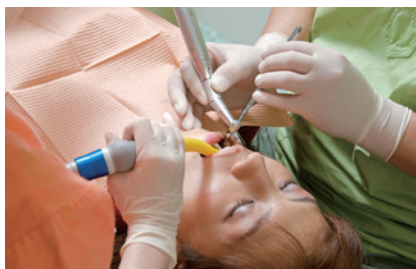
3-8 アシスタントは可動ジョイントによりストレスフリーのバキュームワークが可能になる。



3-9 アシスタントによる片手でのインストルメントチェンジの例。バキューム操作は中断されない。



3-10 ターンピンからセットアップ済みのマイクロモーターハンドピースにチェンジする。オペレータのレストや視野はそのまま。



3-11 マイクロモーターハンドピースによる切削。なお16の樹脂製バキュームチップは舌の圧排が容易にできる。

まとめ

今回は、新しいフライングタイプの「ソヴリン エルゴ」を用い、当院の診療システムの一部を紹介した。貴医院におけるシステムづくりや歯科医師とアシスタントの連携などの少しでも参考になれば幸いである。

化をとまなうものであり、眼精疲労の原因となる)。ムダのない動きの中で効率の良い確実な臨床を行うことが可能となる。

